

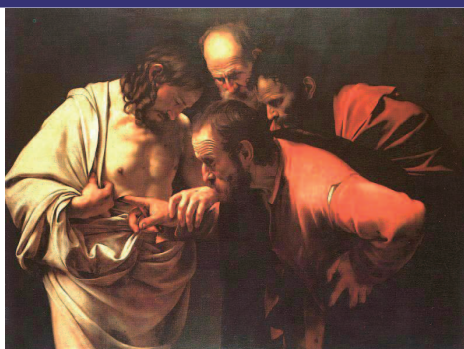


広報 なかわだ

第 391号

7月の予定

集会祭儀、信徒の会 7月 8日(日)
教会委員会 7月 15日(日)
納涼ガーデンパーティ 7月 21日(土)
子どもと共に捧げるミサ 7月 22日(日)



The incredulity of St. Thomas (Caravaggio, 1601-1602)

2012年 7月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

2012年 7月 1日



集会祭儀に神と語り合う

主任司祭 小林 陽一

横浜教区宣教司牧評議会の教区懇談会が2012年7月7日(土)、8日(日)に長野県軽井沢町の御聖体の宣教クララ修道会・軽井沢修道院にて開催されることとなりました。この教区懇談会に教区内の各地区から各3名が出席することとなり、神奈川第5地区共同宣教司牧委員会からは原宿戸塚第二修道院から Sr. 佐藤、戸塚教会委員長の川口氏、そして中和田教会の小林が参加することとなりました。

そのため、7月7日(土)午後6時からの主日ミサは取り止めとし、8日(日)午前9時の主日ミサに代えて、「ミサのない主日の集会祭儀」を実施することとなりました。当日の集会祭儀の総括責任者は上野委員長です。

集会祭儀はミサとは違いますので、聖歌は参加者が喜んで歌えるもの、みんなの心が感謝と賛美の心でわきたつ聖歌が取り上げられると、皆さんが集会祭儀を身近な祭儀と感じられます。子ども達もお年寄りの方も楽しく歌える聖歌がよいと思います。

当日の集会祭儀には、聖書のみことばを味わって、神と語り合うこと、そして御聖体を拝領した時、短い時間、ご聖体のイエス様と語り合うことができれば、それは大きな恵みであると思います。

平和の挨拶は、式が始まって聖歌を歌うとすぐ平和の挨拶となります。

集会祭儀は堅苦しいにらみ合いのような祭儀ではなく、神様と語り合い、教会のいつもの仲間と一緒に祈り、和気あいあいと「よかったね。神様ありがとう」と心を通わせる祭儀です。

7月8日の集会祭儀で一人でも多く教会の友人が増えますように。

日	曜	典 礼	ミ サ ・ 勉 強 会	備 考
1	日	年間第13主日	主日ミサ(9時)	
3	火	聖トマ祝日	祝日ミサ(10時)	
6	金		初金ミサ(10時)	掃除
7	土			(注: 主日ミサはありません)
8	日	年間第14主日	集会祭儀(9時)	信徒の会例会
14	土		主日ミサ(18時)	掃除
15	日	年間第15主日	主日ミサ(9時)	教会委員会
21	土			掃除、納涼ガーデンパーティ(18:00)
22	日	年間第16主日	子どもと共に捧げるミサ(9時)	聖堂清掃(A,B)、サロン
26	木	聖ヨアキム・聖アンナ祝日	祝日ミサ(10時)	
28	土			掃除
29	日	年間第17主日	主日ミサ(9時)	

典礼こよみ
(七月)

納涼ガーデンパーティのご案内

相互親睦と、近隣の方々との交流を深め、そして、暑い夏を吹き飛ばすため、
納涼ガーデンパーティを企画しました。

奮ってご参加下さい！



■日時: 7月21日(土) 午後6時～

※駐車スペースがありませんので、車はご遠慮下さい

■場所: 中和田教会前庭(雨天の場合は集会室)

<主催: 教会委員会 信徒の会>

「集会祭儀」を行うにあたって

現在、横浜教区には司祭召命の減少をきっかけとして、毎日曜日にミサにあずかることができない小教区があります。そのような小教区ではそれぞれの事情により、ミサの代わりに「集会祭儀」が行われています。

幸いにも、私たち中和田教会には小林神父様が主任司祭としていて下さるので、あまり「集会祭儀」の必要性が浸透していないかもしれません。

しかし、他の小教区で取り組んでいる集会祭儀に触れてみることで、集会祭儀を通して共同体として祈る力を育てること、更にはいつ生じるか分かりませんが、ミサにあずかれないときのために共同体として備えることが大切なことではないでしょうか。

この度、小林神父様がご不在になる7月8日(日)に集会祭儀を行うことになりました。

今回の集会祭儀は、横浜教区典礼委員会から発行されている「ミサのない主日 集会祭儀式次第」に沿って行います。

式次第は開祭により始まり、聖歌を挟みつつ平和のあいさつ、詩編唱和、ことばの典礼と移ります。ことばの典礼ではアレルヤ唱を歌い、福音書が朗読され、「勧めのことば」が話されます。その後、信仰宣言、共同祈願、主をたたえ感謝する祈りと続き、交わりの儀へと移ります。

交わりの儀では、あらかじめ神父様が聖変化なさったご聖体を聖体奉仕者からいただくことができます。聖体拝領の後、結びの祈り、派遣の祝福、閉祭と続きます。

これまで典礼部を中心に式次第を検討し、リハーサルを行ってきました。

しかし、「集会祭儀」の名にあるように“皆が集まって祭儀を執り行うこと”が重要なのではないのでしょうか。共同体の信徒が主日に一つに集まり、祈る姿勢が非常に大切なことだと思います。一人でも多くの信徒の方が集い、共同体全体から捧げる祈りで、集会祭儀を実践したいと思います。

どうぞ、皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

(大宮 智)



湘南キリスト教セミナー参加して

第21回湘南キリスト教セミナーが5月26日(土)藤沢教会にて開催されました。

今回は講師 片柳神父(イエズス会、現在は神戸の六甲教会)の「闇に光を〜マザー・テレサの生涯に学ぶ〜」のテーマで講話されました。

当日は好天にめぐまれ、当日券だけでも百枚以上売れ総勢300人以上の方が入場されました。片柳神父は1994年〜95年カルカットでボランティア活動を行い、実際にマザーとお会いになったそうです。初めてマザーにお会いして握手をされたそうですが、マザーの手が意外と大きな手であったのを覚えているそうです。

1946年マザーはカルカットから黙想をする為ダージリンに向かう列車の中で、全てを捨てて貧しい中でも最も貧しい人々のうちにおられるキリストに仕えるため、キリストのあとについてスラム街に出るようという呼びかけを聞き、それが神の御旨であることがわかり、活動をされています。

いつでも笑顔をたやさず神を信頼し活動されていたマザーに、神の愛を感じることができない霊的な闇があったことが、残された手紙のなどによって明らかになったそうです。『わたしの中に恐ろしい闇があります。まるですべてが死に絶えてしまったかのようです。この仕事を始めた頃から、ずっとこんな状態が続いています。』

マザーでも苦しみ、悩みながらもそれでも神を信頼しつづけた強い意志が講話の中で感じられました。私たちが生きる日常生活の中でも悩み、苦しみはありますがマザーのようにすべてを神にゆだねることができたらと思います。今回の講話を聞いて弱い自分を顧みてマザーのように神を信頼し、すべてをゆだね生活できるよう強い意思をもたなければと。

片柳神父は「マザーが自分は弱い人間であるからこそ、神のすべてを受け入れたのではないかと思います」と言われました。弱い人間でありながらも神のすべてを受け入れられない、はがゆい自分があるのを、今日一日みつめ思い知った日になりました。

(井上 昭男)



第57回NRC(旧国鉄カトリックの会)全国大会に参加して

この会は、以前中和田教会の主任司祭だった故 山崎正俊神父様が、かつて国鉄に勤めておられたことから、中和田の信者も一緒に参加させて頂いたご縁で今に至ります。

今回は、東日本大震災被災地の気仙沼で5月25日～27日に開催され、中和田教会から8名の信徒が参加しました。

私個人が、今回参加したのは、悲惨な重荷を背負った被災地の方々の思いを、どの位自分が受止めることが出来るのか、少しでもこの機会を通して実態に触れて、祈りに通じるものを得たいと思ったからです。

多くの惨状を伝える報道を見るたびに涙したり、計画停電で僅かな不自由な生活を経験するだけで、自分の考えが変わったりしたのに、いつとき過ぎれば、今も多くの苦しみのなかで生活している人たちがいることを忘れがちになってしまっていたのです。

初日に、一ノ関駅よりホテルに向うバスの窓から、新緑の若葉の映える山々や木々に絡んで群生する美しい自然の藤の花などが見えましたが、気仙沼に近づくにつれて、津波による瓦礫の山や、破壊されたままの無人の家が散在する、荒涼とした光景になりました。

この日は、泊まったホテルの支配人であり、気仙沼近くの大島在住の被災者の方に、震災の体験をお話をして頂きました。

お話によれば、地震後に最初の潮が引いたときに、家に戻ってしまった多くの人たちが亡くなられたとのことでした。気仙沼で1,030人の人たちが亡くなり、未だ行方不明者が300人もおられます。

現在1ヶ月にだいたい1人位ずつご遺体が見つかるとのことですが、遺族の方は、気持ちの整理が出来ずに苦しい思いをされています。

水や電気が使えなくなったが井戸水が使えたこと、自衛隊や米軍のともだち作戦にはとても助けられたこと、燃料が無いなかで薪を使うお年寄りの知恵、などに感謝したことをお話下さいました。

お話下さった被災者の方は、幸いなことに子供さん奥さんもお無事で、涙の再会のお話は、本当に胸が詰まりました。

現在は、建築制限等いろいろな規制があつて、先の見えない問題がありますが、「一年経ちましたが、私たちが一番恐れることは、誰も来なくなってしまうことです」と仰っていました。

2日目は、気仙沼から近い米川、大籠、大船渡の各教会と大籠キリシタン資料館を訪問しました。

とくに大船渡教会では、今話題になっている、ケセン語で聖書を書かれた山浦玄嗣先生の講演を聴き、正味まる2日の旅は、隠れキリシタンの過酷な歴史と、深い信仰に触れた巡礼の旅でもありました。



聖母子像

3日目の帰る日、気仙沼教会でミサに与りました。また、美しい入り江の港から、大きな被害を受けた大島への定期便が発着する姿がホテルから見えました。

復興が進んで来ているのですが、私たちは、被災者の方々が抱えておられる苦しみの一端に触れたのみで、復興はまだこれからと感じました。

帰宅後、朝刊を見ると、気仙沼市大島で、復興支援の「気仙沼ランフェスタ」(マラソン)が27日に挙行されて、瓦礫が残る海岸線を、出場者が元気に駆けている写真が載っていました。

1日も早く安心して暮らせる平和な日々が来ますように祈ります。

(小野 和江)

『信徒の会』6月度例会より(6月17日)

6月の「信徒の会」は17日、ミサ後に行われました。ちょうど女子パウロ会の書籍販売が行われており、開始が少々遅れましたが、多くのご参加があり、有意義なひとときをもちました。

委員会報告関連では、7月21日(土)に予定されている「中和田納涼ガーデンパーティー」についての概略と災害時に備えての教会としての対策について、小野さんと上野委員長からお話がありました。ガーデンパーティーに関しては次回7月例会で詳細を話し合う予定です。「災害時・・・」に関しては今後も検討が重ねられるとのことですが、共同体として意識が高まってほしいと委員長は願っておられました。

後半は福祉委員の中島さんを中心に、教会に来ておられない方や来たくても来ることができない状況に置かれている方との接点をどのように持ったらよいのだろうかということを話し合いました。接点を持つにしても、現状では情報が得にくく、声かけを必要としている人もつかめないという状況のなか、共同体の一人ひとりの心配りやつながりが大切ですね・・・ということで今回は終わりました。みなさんもお自身がそういう状況になった時、どのように関わって頂きたいかなど分かち合ってみてはいかがでしょうか。

(岩崎 好愛)



委員会だより

(文中敬省略)

△6月10日(土) 13名出席▽



小林神父の話

・横浜教区召命練成会(7月30日(月)～8月2日(木))に3名、横浜教区高校生大会(8月11日(土)～14日(火))に2名ほど参加してほしい。
・11月24日(土) 横浜天主堂献堂一五〇周年ミサがパシフィコ横浜国立大ホールで行われる。是非多くの方に参加して頂きたい。

お知らせ(上野)

2011年度横浜教区召命練成会の参加者の感想文集「イエスさまのつながり」は事務室に保管されている。興味のある方は読んでください。

各グループからの報告

●財務(甲斐)

コピー料金について不明な点があるので業者に確認する必要がある。

●典礼(大宮(智))

・典礼奉仕者養成コース(全10回)大船教会にて参加している(大宮(智))
・集会祭儀7月8日(日)

・6月3日(日)リハーサルに参加者が少なかつたので7月1日(日)ミサ後に2回目のリハーサルをする。

・カトリック横浜教区典礼委員会の広報紙「典礼の風」を購読したい。年間一千円―委員会承認

●宣教(井上、石井(悠))

・5月20日(日)第5地区運動会、約一六〇名の参加があった。
・5月26日(土)キリスト教セミナー、三〇〇名余りの参加があった。

・中高生の合宿(夏休み)について検討する

・泉区民クリスマスについて

○中和田から実行委員会に井上さん加入
○泉区民クリスマスに関連する献金箱等、中和田教会で預かってほしい―倉庫を保管場所として使用することが了承された

●要理(大宮(ひ))

5月20日(日)第5地区の運動会に中和田から10名(幼児・小学生)参加した。

●建物/営繕(福島)

5月20日(日)庭の草取り、庭木の剪定が実施された。剪定はさみを2個購入した。

●福祉(磯田)

・ミニバザーの残品を引き受け、毎週日曜日に売りたい ―6月第4日曜日から始める。

《注》夏物の不用衣料品がその後も多く集まったので引き続き行事委員がミニバザーを行う

・6月3日(日)当教会でカンボジアの子供たちのためのチャリティーコンサートがあり、ミニバザーで残った子供用夏服を主催者に引き取ってもらった。―会場提供のお礼のお葉書を主催者から頂いた。

●行事(大宮(絢))

ミニバザーを2回実施した。今後は不用衣料品の保管する場所を適宜確保する。

●総務(岩淵) スケジュール確認

●広報(今井) 原稿依頼

●信徒の会(小野)

ガーデンパーティー7月21日(土) 照明器具(コード等)が必要、詳細打ち合わせは後日

災害対策(上野)

5月10日教会委員会において検討した災害対策についてまとめた資料(上野さん作成)を横浜教区災害対策特別委員会に回答とする。今後は臨時信徒会等を開き内容を討議、実行することが大切である。

その他(大宮(智))

今日はキリストの聖体・主日のミサで神父様のお話がキリストのご聖体の話だった。やはり初聖体は6月のキリストの聖体(主日のミサ)に行なうのが適当ではないか。

―小学1年生の4月から要理で勉強し、2年生の6月に初聖体を行うのは良いと思う。

―委員会として特に異議がなかったので今後は典礼で検討していく。

(次回委員会 7月15日) 以上

教会からのお知らせ

●転入

エリザベト 関口 貴子さん
クララ 佑子さん
ミカエル 彰さん

6月12日付で、中原教会から転入されました。下永谷にお住まいで、「A地区」に所属されます。

●訃報



カリストス 鶴田恒之さん

6月22日に帰天されました
謹んでご冥福をお祈り申し上げます
(総務グループ)

上野委員長の

コラム

東日本大震災から一年余りが経ちました。4月に横浜教区災害対策特別委員会から、「災害対策」に関連する諸項目について、小教区で検討されたいとの指示がありました。

検討項目は

- ① 小教区独自の支援、
- ② 地区(例えば、第5地区)の現地対策本部の指揮下で行う支援、
- ③ 小教区内の障害者、独居老人等の弱者や滞日外国人への支援、
- ④ 地域社会との相互協力体制の構築の必要性、

の4つに大別されます。

委員会ではこれらについて5、6月の2回に亘り慎重に検討致しました。検討結果のごく一部について記しておきます。

例えば

① については、緊急的避難者50名程度の短期間収容と、ボランティアの最大限20名程度の受け入れが可能なのではないか、

④ については、近隣、町内会等の皆さんに、納涼ガーデンパーティーやバザーにご参加頂く、

などが確認されました。

いずれにしても、①～④の支援を推進するためには対策の立案が急務となります。そのためには全信徒の皆さんの協力が不可欠であります。当然のことながら災害は何時起こるか分かりません、よろしく願います。